児童の家庭学習における動機づけ調整方略 (中間報告)

名古屋大学PhD登龍門推進室 梅本 貴豊

Motivational regulation strategies of children in home study

PhD Professional Office, Nagoya university, UMEMOTO, Takatoyo

要約

本研究の目的は、児童の家庭学習における動機づけ調整方略について検討することである。近年の報告から、子どもの家庭学習が十分に行われていないことが示唆されている。そこで、自律的な家庭学習を促進するための示唆を与えうる視点となるのが、「自己調整学習」である。特に、家庭学習においては、テレビやゲームなどでやる気・動機づけが低下することが多いと考えられるため、「自分の動機づけの調整」という観点が重要となる。しかしながら、これまでの研究では、児童の家庭学習における動機づけの調整については扱っておらず、新たな研究が求められている。以上のように、本稿では先行研究のレビューを行い、動機づけの調整という観点から、児童の家庭学習のプロセスをとらえる重要性を示した。

【キー・ワード】 動機づけ調整方略, 家庭学習, 児童, 自己調整学習

Abstract

The purpose of this study is to examine motivational regulation strategies of children in home study. Recent research has indicated that children do not study enough at home. "Self-regulated learning" is an important influencing factor for autonomous learning at home in children. In particular, "self-regulation of motivation" is an important factor in home study because during home study, children's motivation to study often tends to be decreased by TV or video games. However, previous studies have not examined motivational regulation strategies of children in home study. This paper reviews existing research on self-regulation of motivation and shows the importance of examining autonomous learning processes of children in home study from the viewpoint of self-regulation of motivation.

【Key words】 motivational regulation strategies, home study, children, self-regulated learning

問題と目的

家庭学習は非常に重要であるが、実際には子ども達は家で十分な学習をしているのであろうか。ベネッセ教育総合研究所(2009)の報告では、小学生から高校生になるにつれて、「家庭学習をほとんどしない」と回答する子どもの割合が増加していくことが示されている。また、「進学校の生徒でも教師側が環境を設定しなければ勉強しなくなってきているのかもしれない」という危惧を抱いている教師の存在が示されている(ベネッセ教育総合研究所, 2009)。これは、学校での学習に比べて家庭学習は、子どもの「自律性やセルフコントロール」がさらに必要となることを示唆している。このような現状から、子どもの自律的な家庭学習プロセスを解明し、家庭学習の促進に寄与する研究が求められているといえる。なお、本研究では、小学生児童の家庭学習を対象とする。なぜなら、幼いころの学習方法やスタイル、習慣がそれ以後の学習の基盤となることや、自律的な学習者を育成するための教育的な介入を行うのであればより早い発達段階で行う方が好ましいとされているからである(Corno, 2001; Dignath, Buettner, & Langfeldt, 2008)。つまり、子どもの学習支援のためには、より年少である小学生児童の学習プロセスについて実証的な検討を行う必要があると考えられる。

さて、自律的な学習プロセスの解明と促進について、重要な示唆を与えうると考えられるのが、自己調整学習(self-regulated learning)といわれる研究分野である(Zimmerman & Schunk, 2011)。自己調整学習とは、学習者が目標を設定し、その目標を達成するために自身の認知や動機づけ、行動をモニターし、調整し、コントロールする積極的なプロセスであり(Pintrich, 2004; Wolters, Pintrich, & Karabenick, 2005)、わが国の自ら学ぶ力に対応すると考えられる(伊藤, 2009)。これまで自己調整学習に関する研究が多く行われており、重要な教育的示唆が得られている(Schunk & Zimmerman, 1998)。

自己調整学習に関するこれまでの研究から、学習者の「やる気・動機づけ」が自律的な学習において重要な役割を果たすことが示されている(Pintrich, 2004)。すなわち、高い動機づけを持つ学習者は、効果的な学習方法を用いて、粘り強く、積極的に学習に取り組み、高い達成を示すと考えられる。しかしながら、例えば、学習内容がつまらなくてゲームをしてしまったり、難しくてテレビを見てしまったり、学習に対して常にやる気を高く保つことは極めて困難である。特に、家庭学習においては、こういった傾向が顕著であると考えられる。そこで、やる気が低下した際に自分でやる気を調整して学習を続けることが必要となる。

こういった自身のやる気を調整する方法を、自己調整学習では動機づけ調整方略(motivational regulation strategies)と呼ぶ(Wolters, 2003, 2011)。具体的な動機づけ調整方略として、学習内容を自分の興味関心と関連づけるものや、学習環境を整理するものなどが見出されている(Wolters, 1998, 1999)。そして、学習一般場面を扱ったこれまでの研究から、中学生から大学生の学習において、どのような動機づけ調整方略が積極的な学習行動や持続的な学習を導くのか明らかにされている(伊藤・神藤, 2003; Schwinger, Steinmayr, & Spinath, 2009, 2012; 梅本, 2013; 梅本・矢田, 2014; Wolters & Rosenthal, 2000)。例えば、やる気が低下した際、学習内容と自身の興味のあることを関連づけたりすることで学習へのやる気が高まり、繰り返して覚えたり関連づけて覚えたりといった認知

的方略が積極的に使用され、また諦めることなく粘り長く学習を続けることができる。このように、いくつかの研究によって動機づけの調整という観点から、自律的な学習プロセスが検討されている。

家庭学習を扱った自己調整学習研究も見られるが (Ramdass & Zimmerman, 2011), 家庭学習における動機づけの調整についての研究はほとんどない。唯一, Xu (2007, 2008a, 2008b) や Xu & Corno (2003) が, 中学生や高校生の宿題管理 (homework management) の 1 つとして, 学習中に自身の動機づけを高める「動機づけ」という方略を取り上げている。しかしながら, それらの研究は家庭学習における動機づけ調整方略に焦点を当て, 体系的に扱っているわけではない。

以上より, 本研究では, 小学生児童の家庭学習における動機づけ調整方略について詳細に検討を行う。具体的には, まず小学生の家庭学習における動機づけ調整方略を測定する尺度を開発する。そして, 家庭学習における動機づけ調整方略と認知的方略 (理解や記憶を促進する学習方略), 学習の持続性, 積極的な学習の取り組みなどとの関連を検討する。これらにより, 児童の自律的な家庭学習プロセスの解明とその促進に関して重要な示唆を与えることができると考えられる。また, これまで扱われなかった家庭学習における動機づけ調整方略を体系的に検討することで, 自己調整学習研究の発展にも寄与すると考えられる。

現在の進捗状況

自己調整学習や家庭学習に関する文献をレビューしつつ, 1 回目の調査の準備を行っている。本年度中に, 小学生に対して自由記述による質問紙調査を行い, 記述結果を KJ 法によってまとめて測定項目を作成することで, 小学生用の家庭学習における動機づけ調整方略尺度を作成する予定である。来年度は, 2 回目の質問紙調査を行い, 家庭学習における動機づけ調整方略, 認知的方略, 学習の持続性, 積極的な学習の取り組みなどを測定し, それらの関連について検討を行う予定である。

引用文献

- ベネッセ教育総合研究所 (2009). 第 2 回子ども生活実態基本調査報告書 ベネッセホールディングス
- Corno (2001). Self-regulated learning: A volitional analysis. In B. J. Zimmerman & D. H. Schunk (Eds.), *Self-regulated learning and academic achievement: Theory, research, and practice* (Vol. 2, pp.111-142). Mahwah, NJ: Erlbaum.
- Dignath, C., Buettner, G., & Langfeldt, H-P. (2008). How can primary school students learn self-regulated learning strategies most effectively?: A meta-analysis on self-regulation training programmes. *Educational Research Review*, 3, 101-129.
- 伊藤崇達・神藤貴昭 (2003). 自己効力感, 不安, 自己調整学習方略, 学習の持続性に関する因果モデルの検証—認知的側面と動機づけの側面の自己調整学習方略に着目して— 日本教育工学雑誌, 27, 377-385.

- Pintrich, P. R. (2004). A conceptual framework for assessing motivation and self-regulated learning in college students. *Educational Psychology Review*, 16, 385-407.
- Ramdass, D., & Zimmerman, B. J. (2011). Developing self-regulation skills: The important role of homework. *Journal of Advanced Academics*, 22, 194-218.
- Schunk, D. H., & Zimmerman, B. J. (1998). *Self-regulated learning: From teaching to self-reflective practice*. Guilford Press, NY.
- Schwinger, M., Steinmayr, B., & Spinath, B. (2009). How do motivational regulation strategies affect achievement: Mediated by effort management and moderated by intelligence. *Learning and Individual Differences*, 19, 621-627.
- Schwinger, M., Steinmayr, B., & Spinath, B. (2012). Not all lead to Rome—Comparing different types of motivational regulation profiles. *Learning and Individual Differences*, 22, 269-279.
- 梅本貴豊 (2013). メタ認知的方略, 動機づけ調整方略が認知的方略, 学習の持続性に与える影響 日本教育工学会論文誌, 37, 79-87.
- 梅本貴豊・矢田尚也 (2014). 認知的方略, 動機づけ調整方略とテスト学習時間の関連 日本教育工学会論文誌, 38, 167-175.
- Wolters, C. A. (1998). Self-regulated learning and college students' regulation of motivation. *Journal of Educational Psychology*, 90, 224-235.
- Wolters, C. A. (1999). The relation between High School students' motivational regulation and their use of learning strategies, effort, and classroom performance. *Learning and Individual Differences*, 11, 281-299.
- Wolters, C. A. (2003). Regulation of motivation: Evaluating an underemphasized aspect of self-regulated learning. *Educational Psychologist*, 38, 189-205.
- Wolters, C. A. (2011). Regulation of motivation: Contextual and social aspects. *Teachers College Record*, 113, 265-283.
- Wolters, C. A., Pintrich, P. R., & Karabenick, S. A. (2005). Assessing academic self-regulated learning. In K. Moore & L. Lippman (Eds.), *What do children need to flourish?: Conceptualizing and measuring indicators of positive development* (pp. 251-270). New York: Springer.
- Wolters, C. A., & Rosenthal, H. (2000). The relation between students' motivational beliefs and their use of motivational regulation strategies. *International Journal of Educational Research*, 33, 801-820.
- Xu, J., & Corno, L. (2003). Family help and homework management reported by middle school students. *The Elementary School Journal*, 103, 503-517.
- Xu, J. (2007). Middle-school homework management: More than just gender and family involvement. *Educational Psychology*, 27, 173-189.
- Xu, J. (2008a). Validation of scores on the homework management scale for middle school students. *The Elementary School Journal*, 109, 82-95.

- Xu, J. (2008b). Validation of scores on the homework management scale for high school students. *Education and Psychological Measurement*, 68, 304-324.
- Zimmerman, B. J., & Schunk, D. H. (2011). *Handbook of self-regulation of learning and performance*. New York: Routledge.